

# LIBRARY ☆

No.1 平成 25 年 5 月 27 日  
津田沼高等学校図書委員会

## 図書館からの広報です!!

こんにちは。「LIBRARY」は図書館からの広報です。今年度は、図書館から、新着図書の情報とともにプラスαの情報を発信してみたいと思っています。第1号は、司書教諭の町田からです。

まず、今年度から図書の借り方が変わりました。これまで1週間の期限で3冊貸出しだった本が、**2週間の期限で5冊貸出しています**。また、皆さんからのリクエストされた本も、選定委員会でGOサインが出れば、購入し、リクエストした人に一番に貸出します。これは前年度と変わりません。新聞も**朝日新聞・読売新聞・千葉日報・スポーツ紙**と4種類の新聞を読むことができます。同じ日の新聞でも、各社第1面に様々な工夫が凝らされていて、比較してみるのも楽しいかもしれません。

雑誌コーナーは「**大学への数学**」や「**芸術新潮**」「**音楽の友**」といった本から、「**スクリーン**」「**オレンジページ**」まで多岐にわたって、見ることができます。バックナンバーは貸出しもしています。

入ってぱっと目に付くところに新着図書が置いてあります。本屋大賞ノミネートされた本や話題の本など。もちろん、映画化された本もたくさん入っています。「**つなぐ**」や「**容疑者Xの献身**」、ちょっと古いですが、テレビで放送されていた「**流星の絆**」は奥の方の本棚にあります。スリリングで感動的な作品です。それ以外にも、源氏物語を漫画化した「**あさきゆめみし**」や口語訳した本や「**楽典**」をはじめとした役に立つ本、楽しい本がたくさん入っています。

また、図書館に入ってすぐ左手の裏側には、修学旅行で行く沖縄の資料がたくさん並んでいます。沖縄の歴史や文化を知ってからいけば、3泊4日の旅行も充実したものになることでしょう。



## 1週間で100万部!! ハルキ効果でCD品切れ!?

今年発売1週間足らずで100万部売れた本!知っている人も多いと思いますが、今、日本を代表する作家、村上春樹の新作「色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年」です。徹夜で並んで買った人もいたとか。

村上春樹は1949年に兵庫県で生まれ、早稲田大学文学部演劇学科卒業。ジャズ喫茶を経営する傍ら、キッチンテーブルで書いた「風の歌を聴け」(1979年)で群像新人賞。以後「1973年のピンボール」「羊をめぐる冒険」「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」「ノールウェイの森」「ダンス・ダンス・ダンス」と続く諸作品がいずれもベストセラーとなりました。また、アメリカ現代文学の翻訳も手掛けています。次のノーベル文学賞受賞候補という呼び声も高く、多くの本が様々な国で翻訳されています。

個人的には「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」が好きです。一人の男がシャフルすることで別世界に行くのですが、単行本では二つの世界が色分けしてあって、ミヒャエル・エンデの「はてしない物語」を髣髴とさせますし、また、「螢 納屋を焼く」という短編集がありますが、この中の短編がのちの「ノールウェイの森」の原型となっています。短編集ですから、比較的読みやすいです。

また、地下鉄サリン事件を起こしたオウム真理教の信者たちにインタビューした「アンダーグラウンド」などの著作もあります。

3年前話題になった「1Q84」は1984年、月の二つある世界に紛れ込んだ話ですが、これは、私有財産を放棄して共同生活を営む「ヤマギシ会」がモデルになっており、共同生活を営む団体とその創設者を殺す主人公の話を軸に書かれています。個人的には、理由があれば殺人も構わないという立場をとっているようで気になりますが、読みごたえはあります。その中でヤナーチェクの「シンフォニエッタ」という曲が何度か出て来ますが、書籍発売当時、その曲が売れたそうです。「ノールウェイの森」もビートルズの曲の題名からとっています。今回の「色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年」でモチーフとなっているリストの「巡礼の年」が評判になり、作中に登場するロシアのピアニスト、ラザール・ベルマンが演奏する「巡礼の年」の輸入盤CDが店頭で品切れが続出し、国内盤CDは廃盤になっていたが、再発売することを決定したそうです。ハルキ効果、恐るべし。

参考資料 (ブリタニカ国際大百科事典 平凡社)